

大谷学会

◇春季公開講演会

六月三日（水）開催に向けての準備を進めていたが、新型コロナウイルス感染拡大防止のため二〇二〇年度の講演会は中止となった。

真宗総合研究所

◇委員会

一月二十四日（金）午後四時二十分～

於 博綜館第五会議室

・二〇二〇年度「一般研究」について

・その他

三月二十三日（月）午前十時～

於 博綜館第四会議室

・二〇二〇年度「特定研究・指定研究」

等の研究組織・研究計画について

・その他

五月二十七日（水）書面会議

真宗学会

◇「親鸞教学」第一二二号発行

（二月二十四日）

〈目次〉

「聞」の仏弟子

―清沢満之における「四阿含」等説
誦に学ぶ― 西本祐攝

難思議往生（下）―還相回向釈の展開
を通して― 小川直人

道綽の善知識観―勸帰西方としての存在― 三池大地

他力の仏道 藤嶽明信

親鸞のメタファーと解釈 杉岡孝紀

真偽の勘決―『教行信証』の諸問題（二）
十― 金子大榮

実在の言葉 金子大榮

―願生論（十七）― 安田理深

仏教学会

◇修士・卒業論文梗概発表会

並びに送別懇談会

一月十七日（金）午後四時二十分～

於 尋源講堂

修士・卒業論文発表後に記念撮影を行い、その後慶開館マルチスベース4F南で懇談会を行った。

◇織田顕祐教授最終講義

二月二十一日(金)午後三時

於 尋源講堂

『華嚴経』・『涅槃経』と佐々木月樵
講義終了後、ホテルグランヴィア京都にて謝恩会を開催した。

哲 学 会

◇『哲學論集』第六十六号発行

(二月二十八日)

〈目次〉

生命操作に抗して何が言えるかーサンデルの「生の被贈与性」と障害の問題を手掛りにしてー 脇坂真弥
清沢満之と古代哲学ー明治前期における西洋哲学の初期受容の側面ー

西尾浩二

社会保障の財源問題ー社会福祉の安定・充実を目指す財源論ー

鎌谷勇宏

若者支援における「共同生活型支援」

の位置づけと意義・課題に関する一考察

岡部 茜

初期ニーチェにおける悲劇概念

谷山忠義

◇二〇二〇年度総会・

『哲學論集』第六十六号合評会
新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止。書面にて、総会議案及び昨年度の活動の報告を行った。

国史学会・日本仏教史学会

◇大谷大学日本史の会一月例会

一月二十五日(土)午後二時

於 響流館演習室三

寛政期「龍安一件」考ー本末関係と歴史認識ー

大平敏之

◇大谷大学日本史の会

三月例会・五月例会

新型コロナウイルスの感染防止のため中止。

文 藝 学 会

◇『文藝論叢』第九十四号発行

(三月A5判一六八頁)

〈目次〉

大谷大学での三十年ー『名所和歌抄出』を中心にー 赤瀬知子

『栄花物語』における宮廷女性の死の考察ー死の様相と哀傷歌ー 白濱路子
押韻定型詩をめぐる覚書ー三好達治、中村真一郎、九鬼周造を中心にー 國中 治

物語を均すための方法ー川上弘美『真鶴』の「関係／土地」ー 泉谷 瞬

『沙石集』「先生の父の雉になりたるを殺したる事」を読むー「言語文化」の授業について考えるー 中川眞二

条文と神龍 乾 源俊

『大唐三蔵取経詩話』の俗字「虫」について 浦山あゆみ

軍旅作家楊慈燈の短編小説からみる満洲国軍の実態 李 青

英文学会

◇『英文学会会報』第四十六号発行

(三月十日)

〈目次〉

The Role of Visual Information in the
Learning of English Pronunciation

SITONG Chan

冬の(悪)夢―Ethan Fromeにおける語
り手の創造行為 野末幸子二〇一九年度卒業者と卒業論文題目
学会だより

乳幼児教育学会

◇発足

五月十二日(火)

教育学部・幼児教育コース設置に伴い、
発足した。乳幼児教育の学びをより深
めるため、会誌の発行、行事の企画・
運営を行う予定である。

初等教育学会

◇『大谷大学初等教育学会研究紀要』

第二号発行

(三月一日)

〈目次〉

音楽科の学びを支える学習評価

市川郁子

小学校特別支援学級在籍児童のための

小学校と放課後等デイサービス事業

との連携の実態 井上和久

小学校特別支援学級在籍児童の移行期

における小学校と中学校の連携の実

態 大久保圭子

教師をめざす学生における数学的コミ

ュニケーション能力の測定に向けた

評価枠組みの構築―数量の関係を表

す絵や図、式、線分図に焦点をあて

て― 加藤慎一

江森英世

森本 明

学校ボランティア活動の経験について

の振り返りの分析 田中久美子

ドイツ精神史における公教育の成立Ⅱ

―教育理念の成立と教授法の確立― 林 正幸

学生ボランティアに関する考察―学生

の「経験からの学び」を引き出すた

めに― 田中潤一

一人称で語る BMC (Body-Mind

Centering)® 体験―ダンス教育におけ

る「振り返り」を問う― 原田奈名子

会則

国語教育学会

◇卒業論文発表会(ポスターセッション)

一月十七日(金)午後二時四十分

於 四号館四一〇二教室

文学教材の授業研究

―「ちいちゃんのかげおくり」を中

心として― 一岡凌輔

説明的文章の指導法

一岡凌輔

―「大きな力を出す」の実践を手掛かりにして― 楠 彩華

「話すこと・聞くこと」における授業研究 西川岳良

説明的文章教材における要旨の指導法

―「生き物は円柱形」の実践を手がかりにして― 橋本孝介

説明的文章の指導法

―「生き物は円柱形」の実践を中心に― 福嶋香七絵

物語教材の指導法

―「二つの花」の実践を手がかりにして― 前里真利佳

ユニバーサルデザインを活用した教材

「たんぼのちえ」を用いて― 南 咲帆

物語文の指導法―「注文の多い料理店」

の実践を基に― 余田菜々美

◇「大谷大学国語教育研究」第七号発行

(二月二十五日)

〈目次〉

第一部 大谷大学国語教育学会第七回

研究大会報告

第七回研究大会概要

教師として成長し続ける5年間―「主

体的・対話的で深い学び」のある実

践を求めて― 望月謙二

第二部 研究論文

国語における、児童の主体性・協働性

を刺激する単元構成

―「地域教材と焦点化教材」の実践

分析から― 笠原冬星

読書指導の充実を目指した授業実践

―「読みの視点」を活かして「本の紹介カード」を書く― 高橋由衣

第三部 二〇一九年度卒業論文発表

会・卒業論文

二〇一九年度卒業論文発表会(ポスターセッション)報告

二〇一九年度卒業論文七編(題目・氏

名は前記の「卒業論文発表会」参照)

幼児教育保育科

◇卒業研究発表会

一月十五日(水)午前九時

於 慶聞館K102教室

今年度は、短期大学部としての最終卒業研究発表会として、第二学年のみでの開催となった。各ゼミより選出された代表者九名による卒業研究発表会を行い、発表時間は各十分、各発表の後に質疑応答の時間を設けた。

発表会の最後には、各教員からの講評の場を設け、これまでの卒業研究の取り組みを振り返り、卒業後においても生涯学び続けることを大切にというメッセージのもと、発表会を終えた。